

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270800370		
法人名	有限会社 やまさき		
事業所名	グループホームひなたぼっこ(1ユニットめ)		
所在地	〒859-4501長崎県松浦市佐佐町浦免206番地		
自己評価作成日	令和2年2月26日	評価結果確定日	令和2年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgyvosyoCd=4270800370-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgyvosyoCd=4270800370-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	令和2年3月15日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームの理念に基づき、入居者・家族・職員が共に協力し支え合って一日一日を楽しく安全に過ごして頂けるように取り組んでいる</li> <li>・平屋でバリアフリーにしており、手すりを多く設置して安全面に配慮している</li> <li>・提携医療機関との医療連携体制や協力医療機関(内科・歯科)からの医師の往診を実施することで入居者の健康管理に努めている</li> <li>・スプリンクラーや自動体外式除細動器AED等設備面の充実と共に、消防訓練を行い安心して入居生活を送って頂けるよう取り組んでいる</li> <li>・研修会を受講したり勉強会を行い、職員の資質向上に努めている</li> <li>・近隣の中学校・高校の課外活動の受け入れ及び指導に協力させていただいている</li> <li>・ドライブや地域の催し物に出かけたり、入居者の皆様にできるだけ楽しい入居生活を送っていただけるよう取り組んでいる</li> </ul>
---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念に基づく運営の面において、ひなたぼっこは理念に沿って利用者やご家族視点で、日々の生活支援を行っている。利用者視点の支援については、主に利用者と同年代のオーナー(施設長のお母様)が、また、ご家族視点の支援は施設長が中心となって、それぞれの立場を理解するように努めており、職員にそれぞれの意見を落とし込む際も配慮がなされている。また、運営推進会議について、ほぼ毎回、他法人のグループホームの職員の出席を報告書から確認することができた。逆にひなたぼっこの職員も、他法人の運営推進会議に参加している。このような機会を通しての職員の往来は、客観的な視点で支援内容の意見交換ができるため、利用者やご家族にとって有益な取組みと言える。</p>
---

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所開設時に経営者と職員が共同で理念を作成したことでその理念を日々のケアに反映しやすく玄関入口や応接間及び事務所内に掲示することで理念の共有をし統一した方針のもとケアにあたっている。	ひなたぼっこは理念の共有や実践を図る目的で、実践状況に記載されている通り、事業所のいたるところに理念が書かれた紙面が掲示されていた。これは理念の文言が常に職員の目に届くような取組みの一環ということであった。また、理念の文言に「一人一人が主役」とあるように、利用者第一の考えを筆頭に、ひなたぼっこでは利用者の尊厳を守りながら、利用者一人一人が家庭的な環境の中で、安心して日常生活を営むことができるように支援を続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	移動式理髪車や移動式販売車(パン屋)に定期的に来ていただいたり、地域の催物を見物に出かけている(水軍祭り、文化祭等)	実施状況の通り、移動式の理髪車やパンの販売等で外部との接触の一部を担っている。この他にも職場体験の目的で地元の中学生在が来ることで、様々な年齢層との関わりも確保できている。ひなたぼっことしては、地域との関わりを深化させて、保育園や学校等幅広いつながりを確保したい方針であった。	地域との関わりの部分で、近隣の保育園や圏域の大学との交流を始めたり、災害時の協力体制を整える上で、施設長の知り合いの福祉施設等と提携することが課題の1つとのことであった。一気にことは進まないかもしれないが、関わりを計画的に深めていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校、高校の課外活動(職場体験学習、交流会)やボランティア等は積極的に受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月毎に会議を開催しホームから状況報告や今後の方針等について意見交換を行っている 外部委員からの意見やアドバイスをいただきサービスの向上に活かしている</p>	<p>定期的な会議の開催により、ひなたぼっこの運営状況の共有を関係者間で図ることができている。特徴的な取組みとしては、会議の参加者に他法人のグループホーム職員が、定期的に参加されていることである。類似する悩みや対応方法を共有することで、利用者への支援内容の幅が広がるのが、より一層期待できる。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に参加している行政の担当職員や生活保護の担当職員とは密に連絡を取っており又居宅介護支援事業所等連絡協議会に参加し情報交換を行っている。</p>	<p>現在の行政機関との関わりのメインテーマは、新型コロナウイルスの情報がほとんどのものであった。また、災害対策についても各種発電所が所在地付近にあるため、スケールの大きな対策について、適宜、情報提供がなされているとのことであった。利用者に対する日常的な支援内容については、運営推進会議を通じて報告を行っているため、必要に応じて助言等をもらっている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>離設等の事故防止の為感知センサーを作動させているが日中は玄関は施錠せず開放している。</p>	<p>永続的に身体拘束や虐待をしない支援を行うために、スタッフ会議や身体拘束委員会の場で、対象となる行為等の理解を深めたり、確認することを繰り返し行うようにしている。また、ひなたぼっこでは身体拘束をしないような風土作りの一環として、職員に対して心に余裕を持つように指導を繰り返している。指定基準等の理解だけではなく、情動的な一面にも着目して、総合的な管理を行っている。身体拘束に該当するのかわからないのか、判断がつかない行為については、行政に尋ねた上で、現場職員に落とし込んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>日々の業務においてケアや接遇が不適切と思われる場合スタッフ会議などで確認し合い改善に努めている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>開設以来利用したことはないが契約時や入居後に必要であれば関係機関に相談するようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にホームの概要やケアの方針等について十分に説明を行い理解、納得をしていただき同意を得ている。入居後の変更事項等は書面や面談による説明を行い理解を得るように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に目安箱を設置している。家族の面会時に意見や要望がないか尋ねるようにしている。面会表にも一言書いてもらうように欄を設けている運営推進会議の家族会代表の方からの意見を拝聴している。	ご家族から意見を聴く場面として、面会や運営推進会議の際が中心とはなるが、特徴的な取り組みとして、利用料金を原則現金払いとしていて、この支払の際に近況を伝えたり、意見を聴く場としている。このような形で毎月顔を合わせることによって、ひなたぼっことご家族との信頼関係を築く大切な機会となっている。また、利用者に対してはオーナー(施設長のお母様)がしっかり話を聞いてくれるため、必要なことは現場職員に落とし込んで運営の改善を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回スタッフ会を行い意見を出し合いスタッフ間で解決できることは十分に話し合っ改善し運営に関する意見や要望は代表者に報告し回答を得ている。	施設長のフットワークは軽く、職員からの相談に応じる形で、自ら手すりの設置箇所を変えたり、棚を作ったりしている。以前は車の乗降の際に雨に濡れないように、雨よけの屋根を設置する等、職員の声を大切にしながら業務改善に繋げている。また、毎月定期的を実施しているスタッフ会議の場では、管理者が職員からの相談事等を受けて、どうしても判断が付かない内容によっては、後日、施設長に上申して判断を仰ぐ流れとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者も管理者や職員と共に業務に従事しているので個々の勤務状況を把握できおり給与水準等に反映している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は職員の研修を積極的に奨励しており、職員の力量を把握し研修参加のアドバイスを行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市の居宅連絡協に参加したり他のGHの運営推進会議に参加させていただき会議や勉強会で得た情報を活用しサービスの向上に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問や契約時の面談において十分に説明を行うと共に本人や家族から要望、不安等を聴き支援に反映するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に希望があれば体験利用及び行事への参加受け入れている又入居前の面談や契約時に要望、不安等を聴き、その思いを把握すると共にホームの概要や入居中の支援及び手続き等について十分説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や電話にて本人や家族の要望を聴き、ホームが提供できる支援を説明し必要があれば他の事業者や医療機関を勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食材の下ごしらえ、食後の下膳や食器拭き、洗濯物干しや衣類たたみ手伝っていただいている又職員の見守りの下、他の入居者のお世話をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節の行事等への御家族の参加を依頼すると共に、日々の暮らしの中で入居者本人にとって職員よりも御家族の力を必要とする場合においては面会、外出等の協力をお願いし共に支えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	御家族だけでなく、入居者の顔なじみの知人や友人の方々の面会をお願いすると共に地域の行事(お祭り、文化祭)へ参加を積極的に行っている。	ひなたぼっこでは、これまで利用者が大切にしてきた生活を尊重する方針で、馴染みの人や場所を大切にしている。例を挙げると、神父様の訪問先を利用者の自宅から継続してひなたぼっこでも受け入れたり、少し前の話であるが、門松を利用者と一緒に作ったりしている。このように昔やっていたことや、昔から続けていることを、可能な限りひなたぼっこでも行うことができるように、利用者一人ひとりの生活歴の把握を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握する事で、職員が過剰に関わる事無く本人の素直な感情判断でお互いに支え合う事ができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等にて退居された方でも本人、家族の要望があれば再入居に応じている又、入居者が死亡された場合葬儀に参列している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との関わりの中で本人の希望、意向を汲みとりその実現に努めている。困難な場合は家族に相談し入居者本人が生活しやすくなるよう検討している。	職員は、利用者との会話を大切にし、利用者の表情や行動をよく観察する中で把握するように努めている。オーナーが利用者と同世代であり、生活を共にする中で利用者と共に寄り添い思いや意向を引き出している。把握した情報は施設長や管理者に報告し、「申し送りノート」や「出勤時申し送り」の集まりの中で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に対する入居前の面談それぞれで利用されていた関係機関から情報提供を求め、入居生活の援助に活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日々の記録や職員間の情報交換及び介護計画の活用により、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の担当職員が本人や家族の意向を基に介護計画を立案しカンファレンスを行い他の職員と検討し介護計画を完成させている。	介護計画に沿って支援できたかを「サービス計画実施状況一覧表」に職員が毎日記録し、それを基に「サービス実行モニタリング記録表」で3か月ごとに管理者がモニタリングを行っている。ご家族の面会時(毎月定期的に面会)にご家族の意見、要望を把握し、管理者が利用者、ご家族の意向を踏まえた介護計画原案を作成している。カンファレンスにおいて職員、看護師、管理者で検討して、ご家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や援助内容及びその結果を個別に記録しその他の情報については口頭での情報交換や申し送りノートを活用し職員間での情報を共有しながらケアの実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の希望に応じ買い物支援を行ったり定期的な床屋の依頼をしたり毎週移動式訪問販売車(パン屋)に来ていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事にはできるだけ参加し地域の方と交流ができるように支援行っている又近隣の中学校、高校の依頼に応じ生徒の課外活動の場を提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一のかかりつけ医の為毎月訪問診療を受けており状態に応じてスタッフ同行し外来受診している。	利用者、ご家族が希望する医療機関に受診できるように支援している。毎月、主治医による往診があり、面会時にご家族に報告している。他科受診が必要な場合は基本的にご家族対応だが、状況に応じて職員が同行し、受診結果は「病院受診ノート」に記録して職員間で共有している。状況変化時は「ひなたぼっこ」の看護師がご家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム在職の看護師が常に日々の入居者の状態把握を行い、随時他の職員との情報交換や指導に努めている。又協力医療機関との連携を図り入居者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な訪問診療や外来受診に職員が同行し、かかりつけ医や他の病院職員との情報交換を行っており入院時も本人及び御家族の意向を尊重した上で密接に協議を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関との医療連携体制の中で、重度化終末期対応指針を作成し、契約時、本人や御家族に看取りの支援体制について説明を行い同意を得ている。	入居時に「重度化終末期対応指針」に沿って説明し同意を得ている。利用者に変化があれば、職員が看護師に報告し、状況に応じて看護師が主治医に相談している。主治医とは24時間連絡が取れる体制が整っている。重度化した場合は、その都度、主治医とご家族で相談して今後の方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルを作成し対応できるようにしている。職員が普通救命講習を受講しており入居者の急変時に対応できるようにしている又、年2回消防訓練を実施しており事故発生等に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	防災マニュアル、自然災害時及び原子力災害時避難計画書を作成し災害時に備え備蓄品を確保している又、消防訓練(年2回)や災害時の避難訓練を行うと共に近隣の住民の方々へ協力依頼を行っている。	地域の特性として、つなみ、なだれ、原発対応を行政と話し合っている。自然災害対策として、地元警察署「生活安全課」に指導を受ける、煙を出して避難訓練を行う、庭で消火器訓練を行う等、実践に即した訓練を行っている。また、近隣の道路状況が変わったため、地元警察署「安全課」に避難経路の実地指導を本年度に行う予定である。自治会に「救済活動の協力」を文書でお願いし同意を得るなど、地域住民や警察署、消防署との連携を図っている。また、災害時に備えて3日～7日の備蓄を準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な親しみのある言葉かけをするよう心掛けているが常に相手の反応に注意を払い、気分を害さないように努めている。	ひなたぼっこでは、利用者の誇りを傷つけないように、言葉遣いや声の高さ、大きさに注意して支援している。利用者の表情や行動(座り方、咳払い等)をよく観察して、言葉を否定せず、穏やかに接するように「スタッフ会議」「朝の申し送り時」に施設長や管理者が毎回職員に話をしている。職員の気になる言葉かけがあれば、その都度施設長や管理者が注意する等、日常的な確認と改善に向けた取り組みを行っている。また、個人情報は事務所で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思で自己決定できるような言葉掛けを行い意思表出が困難な方は表情の変化を見て対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の中で、食事や入浴等に関する大まかな決まりはあるが、その他の行動については個々の入居者の判断に委ね、希望があれば可能な限り配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装等職員が買い物支援を行ったり買い物ツアーの時に購入してもらっている。又家族に服装等の購入を依頼している。行事等の特別な日はお化粧を行っており、2ヶ月に1度美容室から来ていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時や年1度嗜好調査を行い嫌いなメニューがある時は代替品を提供している。入居者の能力に応じて食材の下ごしらえや後片付け手伝っていただいている。	利用者の状況に応じて野菜の皮むきや食器拭き、テーブル拭き、下膳等、できることを探して、利用者が力を発揮できるように支援している。利用者の好みを把握して栄養士が1週間分の献立を作成し職員が調理している。家族や地域住民からの差し入れがあれば献立を変更して対応している。誕生会ではちらし寿司を作り、ドライブに行つて好きな物を買つて食べる等、食欲を高めたり、食事への関心を引き起こすための工夫をしている。利用者の状態に合わせて、刻み食や、食器、スプーン、箸を検討して自らの力で食べることができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューでは、個々の好みや摂取能力に応じ、代替の献立や、お粥、キザミ食等の調理方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。又、定期的に歯科往診を依頼しており入居者の摂取能力の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し個々に応じたトイレ誘導やオムツチェックをしている。排尿はオムツにされる方でも便意がある方はトイレ誘導しトイレでの排泄を促すように努めている。	「排泄チェック表」で排泄や食事量、水分、行動等を把握してトイレに誘導している。トイレでの排泄を大切にしながら、利用者一人ひとりの状態に合わせて、パットの大きさ、あて方を工夫する等、個別の排泄支援を行っている。援助が必要な時は、さりげなく居室やトイレに誘導する等、羞恥心や不安を軽減するための工夫もなされている。また、車椅子で利用できる広いスペースを確保している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や水分を多く摂るようにしている。又、レクリエーション時に体操をするよう努めている。必要時には主治医処方の下剤使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4回お風呂を沸かしてできるだけ個々の希望に沿えるようにしている又入浴拒否がある方は入浴する順番を替えたり介護職員を代えたりタイミングをみて再度声掛けを行っている。	利用者の希望(一番風呂がいい、一人で入りたい等)に沿って支援している。入りたくない利用者には声かけや日を変える等の工夫をしている。浴室の横にトイレを設置する、エアコンで室温を調整する、手すりやシャワーチェアを用意する等、安心安全に入浴できるように環境を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を基に自由に過ごしてもらっている。不穏がある方は職員と一緒にお茶をしたり話をして安心して眠れるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関、薬局からの薬に関する指示や説明書について個別に綴じ誰でも確認できるようにしている。配薬、服薬は名前と日付を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々の力量に応じて食材の下ごしらえや洗濯物干し衣類たたみ、食後の片付け等の手伝いをお願いしている又買い物ツアーやドライブに出かけ気分転換できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば職員が同行し買い物支援を行っている又地域の方や家族からの情報を受け地域の催し物等へ積極的に参加するよう努めている	天気の良い日に、近所にあるオーナー宅まで出かける、敷地内を散歩する、車椅子で外気浴する、希望する利用者と職員が買い物に出かけて、地域の顔なじみの人と話をする等、その日の利用者の希望に沿って支援している。また、家族と共に花見に出かける、地域の祭りに出かける等、一人ひとりが外出を楽しめるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物希望があれば職員が同行し出かけている又定期的に行き物ツアーを計画し近くのスーパーへ出かけ買い物支援をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をして直接話してもらっている本人の希望で携帯電話を所持している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには天窓により自然光を取り入れており壁面には季節に応じて行事の写真や入居者、職員の作品を掲示している。	リビングには、季節の飾り物(お雛様、兜、クリスマスツリー等)を置き、利用者の手作り作品を展示している。畳のスペースでは洗濯物たたみや横になって休むことができるように環境を整えている。カレンダーや日課表で生活を確認し、トイレやお風呂の暖簾等、大きく表示して利用者が不安なく行動できるように工夫している。廊下や洗面所にカーペットを敷き、転倒による事故を防いでいる。また、空気清浄機、加湿器を設置し、換気に配慮し、手すりやテーブルはアルコール消毒する等、感染予防にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや畳の間で横になって憩われたりフロアのテーブル席に集まってお話をされる様子がみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅等で使い慣れた物や大切にしていた物等を持ち込んでもらい使用してもらっている。	利用者の状態に応じて、居室に空気清浄機を設置する、ベッド横にタッチアップや滑り止めマットを敷く等、安心安全に生活できるように配慮している。居室のタンスに衣類を表示して自分で出し入れができるようにする、バケツと雑巾を用意して自分の力で居室の掃除する等、利用者自らの力を引き出す環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで手すりを多く設置しており1人でも各場所へ容易に移動できるようにしている車椅子自走できる方については見守りをしている。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270800370		
法人名	有限会社 やまさき		
事業所名	グループホームひなたぼっこ(2ユニットめ)		
所在地	〒859-4501長崎県松浦市佐佐町浦免206番地		
自己評価作成日	令和2年2月26日	評価結果確定日	令和2年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4270800370-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4270800370-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	令和2年3月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームの理念に基づき、入居者・家族・職員が共に協力し支え合って一日一日を楽しく安全に過ごして頂けるように取り組んでいる</li> <li>・平屋でバリアフリーにしており、手すりを多く設置して安全面に配慮している</li> <li>・提携医療機関との医療連携体制や協力医療機関(内科・歯科)からの医師の往診を実施することで入居者の健康管理に努めている</li> <li>・スプリンクラーや自動体外式除動器AED等設備面の充実と共に、消防訓練を行い安心して入居生活を送って頂けるよう取り組んでいる</li> <li>・研修会を受講したり勉強会を行い、職員の資質向上に努めている</li> <li>・近隣の中学校・高校の課外活動の受け入れ及び指導に協力させていただいている</li> <li>・ドライブや地域の催し物に出かけたり、入居者の皆様にできるだけ楽しい入居生活を送っていただけるよう取り組んでいる</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所開設時に経営者と職員が共同で理念を作成したことでその理念を日々のケアに反映しやすく玄関入口や応接間及び事務所内に掲示することで理念の共有をし統一した方針のもとケアにあたっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	移動式理髪車や移動式販売車(パン屋)に定期的に来ていただいたり、地域の催物を見物に出かけている(水軍祭り、文化祭等)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校、高校の課外活動(職場体験学習、交流会)やボランティア等は積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に会議を開催しホームから状況報告や今後の方針等について意見交換を行っている 外部委員からの意見やアドバイスをいただきサービスの向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加している行政の担当職員や生活保護の担当職員とは密に連絡を取っており又居宅介護支援事業所等連絡協議会に参加し情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設等の事故防止の為感知センサーを動作させているが日中は玄関は施錠せず開放している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務においてケアや接遇が不適切と思われる場合スタッフ会議などで確認し合い改善に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設以来利用したことはないが契約時や入居後に必要であれば関係機関に相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にホームの概要やケアの方針等について十分に説明を行い理解、納得をしていただき同意を得ている。入居後の変更事項等は書面や面談による説明を行い理解を得るように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に目安箱を設置している。家族の面会時に意見や要望がないか尋ねるようにしている。面会表にも一言書いてもらうように欄を設けている運営推進会議の家族会代表の方からの意見を拝聴している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回スタッフ会を行い意見を出し合いスタッフ間で解決できることは十分に話し合っ改善し運営に関する意見や要望は代表者に報告し回答を得ている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も管理者や職員と共に業務に従事しているので個々の勤務状況を把握できており給与水準等に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の研修を積極的に奨励しており、職員の力量を把握し研修参加のアドバイスをを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の居宅連絡協に参加したり他のGHの運営推進会議に参加させていただき会議や勉強会で得た情報を活用しサービスの向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問や契約時の面談において十分に説明を行うと共に本人や家族から要望、不安等を聴き支援に反映するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に希望があれば体験利用及び行事への参加受け入れている又入居前の面談や契約時に要望、不安等を聴き、その思いを把握すると共にホームの概要や入居中の支援及び手続き等について十分説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や電話にて本人や家族の要望を聴き、ホームが提供できる支援を説明し必要があれば他の事業者や医療機関を勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食材の下ごしらえ、食後の下膳や食器拭き、洗濯物干しや衣類たたみ手伝っていただいている又職員の見守りの下、他の入居者のお世話をいただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節の行事等への御家族の参加を依頼すると共に、日々の暮らしの中で入居者本人にとって職員よりも御家族の力を必要とする場合においては面会、外出等の協力をお願いし共に支えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族だけでなく、入居者の顔なじみの知人や友人の方々の面会をお願いすると共に地域の行事(お祭り、文化祭)へ参加を積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握する事で、職員が過剰に関わる事無く本人の素直な感情判断でお互いに支え合う事ができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等にて退居された方でも本人、家族の要望があれば再入居に応じている又、入居者が死亡された場合葬儀に参列している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との関わりの中で本人の希望、意向を汲みとりその実現に努めている。困難な場合は家族に相談し入居者本人が生活しやすくなるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に対する入居前の面談それぞれで利用されていた関係機関から情報提供を求め、入居生活の援助に活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日々の記録や職員間の情報交換及び介護計画の活用により、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の担当職員が本人や家族の意向を基に介護計画を立案しカンファレンスを行い他の職員と検討し介護計画を完成させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や援助内容及びその結果を個別に記録しその他の情報については口頭での情報交換や申し送りノートを活用し職員間での情報を共有しながらケアの実践や介護計画に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の希望に応じ買い物支援を行ったり定期的な床屋の依頼をしたり毎週移動式訪問販売車(パン屋)に来ていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事にはできるだけ参加し地域の方と交流ができるように支援行っている又近隣の中学校、高校の依頼に応じ生徒の課外活動の場を提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一のかかりつけ医の為毎月訪問診療を受けており状態に応じてスタッフ同行し外来受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム在職の看護師が常に日々の入居者の状態把握を行い、随時他の職員との情報交換や指導に努めている。又協力医療機関との連携を図り入居者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な訪問診療や外来受診に職員が同行し、かかりつけ医や他の病院職員との情報交換を行っており入院時も本人及び御家族の意向を尊重した上で密接に協議を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関との医療連携体制の中で、重度化終末期対応指針を作成し、契約時、本人や御家族に看取りの支援体制について説明行い同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルを作成し対応できるようにしている。職員が普通救命講習を受講しており入居者の急変時に対応できるようにしている又、年2回消防訓練を実施しており事故発生等に備えている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	防災マニュアル、自然災害時及び原子力災害時避難計画書を作成し災害時に備え備蓄品を確保している又、消防訓練(年2回)や災害時の避難訓練を行うと共に近隣の住民の方々へ協力依頼を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な親しみのある言葉がけをするよう心掛けているが常に相手の反応に注意を払い、気分を害さないように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思で自己決定できるような言葉掛けを行い意思表出が困難な方は表情の変化を見て対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の中で、食事や入浴等に関する大まかな決まりはあるが、その他の行動については個々の入居者の判断に委ね、希望があれば可能な限り配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装等職員が買い物支援を行ったり買い物ツアーの時に購入してもらっている。又家族に服装等の購入を依頼している。行事等の特別な日はお化粧を行っており、2ヶ月に1度美容室から来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時や年1度嗜好調査を行い嫌いなメニューがある時は代替品を提供している。入居者の能力に応じて食材の下ごしらえや後片付け手伝っていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューでは、個々の好みや摂取能力に応じ、代替の献立や、お粥、キザミ食等の調理方法を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。又、定期的に歯科往診を依頼しており入居者の摂取能力の維持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し個々に応じたトイレ誘導やオムツチェックをしている。排尿はオムツにされる方でも便意がある方はトイレ誘導しトイレでの排泄を促すように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や水分を多く摂るようにしている。又、レクリエーション時に体操をするよう努めている。必要時には主治医処方の下剤使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4回お風呂を沸かしてできるだけ個々の希望に沿えるようにしている又入浴拒否がある方は入浴する順番を替えたり介護職員を代えたりタイミングをみて再度声掛けを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を基に自由に過ごしてもらっている。不穏がある方は職員と一緒にお茶をしたり話をして安心して眠れるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関、薬局からの薬に関する指示や説明書について個別に綴じ誰でも確認できるようにしている。配薬、服薬は名前と日付を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々の力量に応じて食材の下ごしらえや洗濯物干し衣類たたみ、食後の片付け等の手伝いをお願いしている又買い物ツアーやドライブに出かけ気分転換できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば職員が同行し買い物支援を行っている又地域の方や家族からの情報を受け地元の催し物等へ積極的に参加するよう努めている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物希望があれば職員が同行し出かけている又定期的に買い物ツアーを計画し近くのスーパーへ出かけ買い物支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をして直接話してもらっている本人の希望で携帯電話を所持している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには天窓により自然光を取り入れており壁面には季節に応じて行事の写真や入居者、職員の作品を掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳の間で横になって憩われたりフロアのテーブル席に集まってお話をされる様子がみられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅等で使い慣れた物や大切にしていた物等を持ち込んでもらい使用してもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで手すりを多く設置しており1人でも各場所へ容易に移動できるようにしている車椅子自走できる方については見守りをしている。		